


授業のタイムスケジュール例（約45分）

活動の展開 (所要時間)	参加者の活動の流れ	講師、職員の役割/★ポイント
<p>(はじめに)</p> <p>準備が整ったら、先生（代表者）の声かけでスタートし、大月さん（もしくは財団職員）へ進行を渡してください。</p> <p>大月さん・財団職員あいさつ「はじめまして。今日は皆さんと図工（社会）の時間を楽しむため、文化会館たづくりからやってきました！文化会館たづくりに来たことある人？」</p>		
<p>導入 (5～10分)</p>	<p><b>ゲームに参加（①か②は事前に相談）</b></p> <p>① 「廃材カード」ゲーム→美術（図工）向き フィルム缶の素材（廃材）をカードにしたものの中から、好きな素材を選び発表する。</p>  <p>② 「このパーツは、なんだろう？」推理ゲーム→社会科向き 普段あまり見慣れない廃材・端材が何であるかを推理する。色々な角度から撮影された廃材の写真を見る。（畳のヘリ、ヴァイオリンの部品、映画フィルムの芯、着ぐるみの切れ端など） ※約20人ならば、①、②ともにグループワーク</p>	<p><b>ゲームの紹介と説明</b></p> <p>①「廃材カード」ゲーム 「何が好きか？なぜ選んだのか？今の気分？」などの問いかけ。最後に廃材（いらなくなったもの）であることを明かし、カード裏面に廃材の名称・出所が記載されていることを説明。 ★展開につながる創造力・観察力を育てるポイント</p> <p>②「このパーツは、なんだろう？」推理ゲーム 「何に使うものかな？見たことある？」などの問いかけ。最後は答えあわせし、廃材であることを明かし、「調布のまち」の説明。 ★展開につながる創造力・観察力を育てるポイント ★これから遊ぶ廃材が、調布のどこから出た何なのか、「調布のまち」に興味を持つためのポイント</p>
<p>展開 (20分)</p>	<p><b>「フィルム缶にアート！」の実践</b> ゆっくり素材を観察し、選び、作品をつくる</p> <p>※グループワークの場合、順番にフィルム缶を受け取り、廃材スペースへ。待っているグループは、予習もかねて廃材カードを見る。</p>	<p><b>「フィルム缶にアート！」の説明</b> 「ゆっくり素材を観察し、好きなものを選んで、フィルム缶に載せて作業機で作成しましょう。」</p> <p>素材を観察している参加者に呼びかけ。 調布のどこでもらった廃材なのか、素材自体にも興味をもってもらえるような工夫をする。 ★廃材を通し「調布のまち」を沢山学べる時間</p>
<p>発表 (15～20分)</p>	<p><b>完成した作品を撮影し提出、発表</b> 書画カメラの場所まで作品を運ぶ 講師、職員の質問・呼びかけに応じる。</p>	<p><b>書画カメラの用意、発表会の場の設営</b> 作品を投影し、良い点、工夫を感じる所を講評。 「なにを表現しましたか？」など参加者が自慢げに話したくなるような質問をする。 ★発想力を育てるポイント ★発表したことへの満足感を持たせ、積極性を養う ★他の参加者との表現の違いを認識し個性を認め合う</p>
<p>片付け (5分)</p>	<p><b>使った素材をもとのフィルム缶に戻す</b></p>	<p><b>片付けの手伝いをする</b></p>